

懸命の水道復旧作業の現場から 市上下水道事務所に聞く

震災から一ヶ月半が過ぎた四月末に、やっと市内全域で水道が復旧。あらためて、水の大切さを痛感した出来事でした。ライフラインの復旧のために、さまざまな対応を迫られた上下水道事務所を訪ね、この間の状況と、今後の展望を伺いました。

●今回の断水の原因と対応について聞かせてください？

断水の原因は、中央配水池の水道タンクの損傷で、応急処置として、寺山浄水場からの配管をつなぐことでのいできました。

ただ、タンクが空になったことで水道本管に空気が入り、それを抜かないで水を通すと本管自体が破裂する恐れがあるので少しづつ、慎重に行う必要がありました。それには、現在の事務所の人間では足りないのです、本庁（市役所）の水道業務経験者に十四名ほど応援に来てもらいました。

また、病院など緊急を要する箇所の復旧を最優先で行ったので、地域によって復旧までに要した時間に差ができてしまいました。

現在水道タンクは応急

処置で補修し、従来の三分の一度まで注水して使っていますが、圧力が弱い状態が続いています。新設までは六〜七ヶ月かかる予定です。



全国から応援に駆けつけてくれた給水車

●全国から給水車が来ていたようですが？

災害対策本部の要請で、自衛隊が地震の日の翌未明には到着。必要なものは一切自分たちで持参していました。道の駅エコハウスを宿泊所に使ってもらいました。約二十日間、みごとに統制の取れた対応をして頂きました。

十二日の午後からは愛知、神奈川から応援にとくに、病院の屋上など、

高いところに設置してある受水槽に給水するには特殊なポンプ車が必要でしたが、これが矢板にはないため助かりました。その後いろいろなところから給水車で応援に来て頂きましたが、これをとりまていたのが、日本水道協会（横浜市水道局が事務局）栃木支部（宇都宮上下水道局が事務局）です。県内の被害状況を調査し、応援の必要性を確認し、人的応援と給水車の手配をして頂きました。（新潟沖地震の際は矢板からも応援に行ったことがあります）。

午前七時から午後九時までの長時間作業なので疲労が蓄積しますから、一週間ほどで交代して頂きました。また、それぞれ帰ってからの報告するために、必要な情報を交換したり、逆に資料をいただいたり、水道タンクのPCパネルは大丈夫だろうと助言をもらったりと、いろいろなことを経験として学ぶ場にもなっていました。

●課題も多かったようですが？

当初は一万千世帯が断水しましたから、まず給水車の配置場所をどこにするかが課題でした。優先順位や、小学校などの

公共施設であることなど、いろいろなことを考えて決めていきました。

また、給水車を配置しても、何時間も待たせる事になってしまったり、高齢者の方には重い水の運搬が難しかったり、雨や、夜の対策が必要だったり、なかなかスムーズに行かないこともあり市民のみなさんにはイライラすることも多々あった



今まで経験したことのない給水車に

と思います。ボランティアの方や消防団にも給水や運搬を手伝ってもらいましたが、何しろ今回のようなことは初めて経験するので、

今思えば、ああすれば良かった、こうすれば良かったと思うことの連続でした。事務所には、「なぜ水が出ないのか？いつ出るのか？」「隣は出るのにうちが出ないのはなぜか？」など苦情の電話も多々あり、対応に大変苦慮しました。また「今は災害復旧に時間を取りたいので」と復旧作業を最優先したこともありました。

●今回のことで得た教訓は？

応援に来ていただいた方と交流する中で、たくさんの方の勉強をさせていたいただきましたが、とくに横浜水道局は規模も大きく、水道の専門職員なので、来られた方は高度な知識を持っていてすごいと思いました。災害の時には特に専門的な知識が必要だということを痛感しました。

また、今後は、防災訓練などで、水が止まるとはどういうことかを折にふれ経験することが必要だと思えます。そして何よりも、災害が起こったときには、まず最初に組織の対応策づくりを迅速に行う必要があると痛感しました。

●放射能汚染が心配されていますが？

事故直後、寺山浄水場の水で最高でも二十六ベクレルという数値で幼児の摂取基準は超えていませんでした。現在はほとんど検出されずという状態が続いています。地下水からは検出されていませ

ん。この先も水道協会からの指導で一週間に一度サンプルを埼玉の検査機関に送って調べてもらうことになっていきます。結果は市のホームページに公開されます。

●市民のみなさんに協力して欲しいことは？

引き続き節水にご協力をお願いいたします。特に、炊事、洗濯、風呂の時間帯が重なりと水量が細くなるので、できれば時間帯をずらしていただければ大分違ってくると思います。

現在は、漏水さえなければ平常時に戻りつつありますが、まだまだ余震の影響が考えられるので油断はできません。「大変でしょうけど頑張ってください！」「水が通りませんでした、ありがとうございます」と言われたときの感激を糧に頑張りますのでよろしくお願ひします。

編集後記

東日本大震災から二ヶ月。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

今号は、この震災の中で「自分たちのできることをする」という当たり前の行為が市民力なのだ」ということを示してくれた出来事をいくつかご紹介しました。